

平成30年10月25日開催 第8回県政ランチミーティングに寄せられた ご意見への対応状況について

1 開催概要

- ・開催日 平成30年10月25日(木) 12:30～13:30
- ・会場 よこね田んぼ
- ・参加者 よこね田んぼ保全委員会
- ・懇談内容 よこね田んぼ保全活動を通じた中山間地域の活性化と、棚田に集う人々との交流について

2 参加者のご意見の概要と、ご意見に対する対応状況

(1) オーナー制度の拡充等について

(ご意見の概要)

シャワー室や更衣室があればもっとオーナーになりたいという人が来ると思うが、十分な設備が整備されていない。

トイレについても課題を抱えており、バイオマストイレに今の子供たちは慣れておらず、また、菌を殺してしまうので洗剤で洗えず、水も使えない状況で、トイレの衛生管理が大きな課題。

他の棚田百選に選ばれているところでは、シャワー施設が整備されていたり、外から来る人の利便性に配慮した設備が整っており、オーナーもここよりずっと多い。

(知事の発言)

税金をどこまで使うかということにも限界がある。どうすれば自立できるのか、一緒に考えなければいけない。

地域の方々の負担でやるのは大変なこと。オーナー制度をもっと稼げる仕組みにできないか。

(ご意見等に対する対応状況)

国との協議が必要となりますが、まずは、よこね田んぼ保全委員会が望む地域が自立できる仕組みづくりを踏まえた改修方法となるよう、飯田市及び県の関係する部署が一同に会し、課題の整理や対応方針等を検討するための意見交換会を開催する予定です。

【担当課：南信州地域振興局 農地整備課】

(2) 森林づくり県民税による里山整備について

(ご意見の概要)

森林税を使って里山整備事業等をやろうと思うと、チェーンソーやガソリンなどに対する補助はあるが、日当はでないので、この点を考えていただくと元気が出る。

私たちが里山を活かし、里山を元気にしないと山の中に住んでいる意味がない。山を活かさないと、これからの飯田市千代地区は活性化しないので、「山」というのをある程度は中心に考えていきたい。

(知事の発言)

人件費を補助するということは、県や市町村が金を出し続けないと森林の整備ができないということになってしまう。

森の資源をどう使うかという仕組みづくりに対してはいくらでも応援できる。みんなが協力して、里山を整備して、そこから出た薪はみんなで分配するという仕組みをうまく作ってもらうことと、里山整備利用地域やよこね田んぼも都市と交流して、都会の人たちが農業体験や農家民泊をできるようなパッケージを考えてほしい。

田んぼが農業で、里山は林業という話ではなく、農業と林業は一体で考えなければいけない。農政部と林務部が一体的にプロジェクトを考える方がいいのではないか。

（ご意見等に対する対応状況）

田んぼや里山、農家民泊など飯田市千代地区の資源を地域が最大限に活かした取り組みができるよう、飯田市及び県の関係する部署が一同に会し、課題の整理や対応方針等を検討するための意見交換会を開催する予定。

【担当課：南信州地域振興局 農地整備課】

3 問合せ先

企画振興部広報県民課県民の声係

電話 026-235-7110

FAX 026-235-7026

E-mail koho@pref.nagano.lg.jp